2012 年 8 月

報道各位

手の痕跡

国立西洋美術館所蔵作品を中心とした
ロダンとブールデルの彫刻と素描

Traces of Hands

Sculpture and Drawings by Rodin and Bourdelle
from the National Museum of Western Art, Tokyo

国立西洋美術館
朝日新聞社

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素より、当館の活動と運営にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、このたび国立西洋美術館と朝日新聞社は、2012 年 11 月 3 日(土・祝)から 2013 年 1 月 27 日(日)まで、『手の痕跡　国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描』展を開催いたします。
つきましては、展覧会プレスリリース、作品写真資料をお送りしますので、ご高覧の上、当館広報にご協力いただければ幸いです。

＊＊＊

国立西洋美術館では、現在、ロダン彫刻 58 点、版画 10 点、素描 17 点、ブールデル彫刻 11 点、素描 2 点を所蔵しています。これらは、当館の彫刻コレクションの中核を占めるものであるだけでなく、国内所蔵のロダンとブールデルの作品としても質、数の両面から貴重なコレクションといえます。ところが当館では、これまで常設展示室や屋外でその一部をご紹介してきただけで、これらの彫刻を一堂に展示する機会がありませんでした。今回は、所蔵のロダン、ブールデルの作品約 90 点をまとめて展示し、あらためてその芸術の意義を探るものです。
ロダンとブールデルは、サロン(官展)や公共彫刻を通じ、19 世紀後半から 20 世紀初頭のフランス彫刻界に次々と意欲作品を発表し、ともに後世に大きな影響を残した彫刻家です。本展では、彼らの関係に光をあて、フランス近代彫刻の一断面を示すことを目指しています。国立西洋美術館のコレクション主体とはいえ、ロダンとブールデルの関係を掘り下げるという点で、今回の展覧会は国内では初めての試みです。また、国立西洋美術館設立の基となった松方コレクションにおけるロダンとブールデル作品の歴史的意義も、併せてご紹介します。なお、本展には東京国立博物館所蔵ロダン作《エヴァ》の出品も予定しています。
今回はより多くの方に美術を身近に感じていただくイベント Fun with collection 2012、FUN DAY を併せて開催します。

手の痕跡

国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描

― 開 催 概 要 ―

■会　　期　　2012 年 11 月 3 日(土･祝)～2013 年 1 月 27 日(日)
■会　　場　　国立西洋美術館　企画展示室
　　〒110-0007　東京都台東区上野公園 7-7
■開館時間　　午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分(金曜日は午後 8 時まで)
　　＊入館は閉館の 30 分前まで
■休 館 日　　月曜日(ただし、12 月 24 日、1 月 14 日は開館、12 月 25 日、1 月 15 日は休館)
　　12 月 28 日(金)～1 月 1 日(火･祝)
　　＊年始は 1 月 2 日(水)から開館します。
■主　　催　　国立西洋美術館／朝日新聞社
■協　　賛　　大伸社
■協　　力　　西洋美術振興財団

■観 覧 料

	当　日	団　体
一　般	800 円	600 円
大学生	400 円	200 円

＊高校生以下および 18 歳未満の方は無料
（入館の際に学生証または年齢の証明できるものをご提示ください）
＊心身に障害のある方および付添者 1 名は無料(入館の際に障害者手帳をご提示ください)
＊団体は 20 名以上
＊本展の観覧券で常設展示も併せてご観覧いただけます。
＊11 月 3 日(文化の日)は無料観覧
＊「FUN DAY」開催日(11月10日(土)、11日(日))は無料観覧

■交通案内　　JR上野駅(公園口)　徒歩約 1 分
　　京成電鉄　京成上野駅下車　徒歩約 7 分
　　東京メトロ銀座線･日比谷線　上野駅下車　徒歩約 8 分
　　※美術館には駐車場はございません。

■問い合せ先　　ハローダイヤル　03-5777-8600
　　国立西洋美術館ホームページ　http://www.nmwa.go.jp/

ご掲載用写真データの送付について
　展覧会広報にご利用いただけるよう、画像データを用意いたしました。ご希望の場合は、添付の画像一覧をご参照のうえ、申込書に必要事項を記入しFAXにてお送りください。

《広報に関するお問い合せ》
国立西洋美術館　事業担当:野澤、田島、眞壁
TEL 03-3828-5144 / FAX 03-3828-5135(土日祝日を除く、9:30～17:30)

[展覧会の見どころ]

1840 年生まれのロダン、それより 21 歳若いブールデル。ともにフランス近代彫刻史上に個性を輝かせ、新しい彫刻表現を生み出した作家です。19 世紀後半のフランスにおいて、社会や文化が足早に近代化を遂げるなかで、新古典主義やロマン主義を包括しながら、独自の表現を獲得し、彫刻家としての道を切り開いたロダン。そのロダンのもとで一時は下彫り工として働き、その彫刻に最も近く接していたブールデル。ロダンにとってブールデルは、才能豊かな次世代の彫刻家であり、ブールデルにとってロダンは学ぶべき師であると同時に、乗り越えるべき先人でもありました。両者の関係を探っていくと、こうした個人的な交流に根ざした影響関係だけではなく、この時代の彫刻制作の現場のあり方、彫刻における複製やオリジナリティについての考え方が見えてきます。前庭に常設されているロダンとブールデルの大型彫刻は国立西洋美術館の顔ともいえるもので、すでに多くの来館者におなじみの作品です。これらの作品も、本展の内容に照らし合わせてみるとき、新たな発見にあふれることでしょう。

展覧会は全体で5つの章にわかれています。

第1章　古代彫刻やルネサンス彫刻からの影響

19 世紀フランスでは彫刻家として成功するためには、国立美術学校で著名な師を得、ローマ賞を受賞し奨学金を得てローマに滞在しながら、イタリア各地の彫刻や絵画、建築などを研究することが重要とされました。しかしロダンもブールデルもローマ賞を獲得することはなく、ロダンは国立美術学校で学んだ経験もありません。ブールデルは国立美術学校で学び始めたものの、型にはまったアカデミーでの教育に合わず、そこから飛び出しています。他方で、彼らはルーヴル美術館あるいは旅で訪れたイタリア各地で、古代彫刻やルネサンス、バロック彫刻に触れ、精力的にそこから学びとろうとしています。

ロダン初期の代表作《青銅時代》、続く《アダム》や《エヴァ》にはミケランジェロなどの影響が明らかです。ブールデルは、古代神話に登場するヘラクレスやケンタウロスなどを現代的に造形する方法を模索しました。

[第 1 章の主要作品]

ロダン《青銅時代》1877 年、ブロンズ　※画像①
ロダン《アダム》1881 年、ブロンズ
ロダン《エヴァ》1907 年、ブロンズ　※画像②
ブールデル《弓をひくヘラクレス（習作）》1909 年、ブロンズ　※画像③
ブールデル《瀕死のケンタウロス》1911-14 年、ブロンズ

第2章　肖像・頭部彫刻

ロダンもブールデルもともに、肖像彫刻家として優れた技量の持ち主です。初期には《父の胸像》や《髪に花を飾る少女》などで古代あるいはロココ時代の影響をも示したロダンは、後に身近な批評家や画家、小説家などをモデルにして、肖像彫刻を多数制作しました。頭と胸部という限られた造形要素をもとに、そのモデルの人格さえも暴きだすような作品群です。また、大理石の《泣く女》

や《洗礼者ヨハネの首》は、象徴主義の文脈でとらえることができ、装飾的な要素が前面に表されています。ブールデルによる《首のあるアポロンの頭部》は、師であるロダンの影響から離れ、独自の表現を獲得した時期の記念碑的な作品です。

［第2章の主要作品］

ロダン《髪に花を飾る少女》1870 年頃、ブロンズ

ロダン《ピュヴィ・ド・シャヴァンヌの胸像》1890-91 年、ブロンズ　※画像④

ロダン《泣く女》大理石　※画像⑤

ブールデル《首のあるアポロンの頭部》1900 年、ブロンズ　※画像⑥

ブールデル《アナトール・フランスの胸像》

第3章　人体の動勢表現

1880 年にフランス政府から受注した《地獄の門》は、ロダンに一層自由な人体表現の可能性を与える基盤となりました。実際に《地獄の門》に組み込まれたもの、組み込まれることがないまま習作で終わったものなど、無数の人体像が創造されました。天も地もない空間に投げ出された人体はすべて裸体で、《うずくまる女》や《わたしは美しい》、《フギット・アモール》など、単体像として《地獄の門》から独立したものもあります。これらの作品では、通常の人間の動作としては考えつかないようなポーズや複数の像の組み合わせに、ロダンの鋭敏な造形感覚を見ることができます。ブールデルはロダンのもとで職人として働きながら、最もよくロダンの仕事を見ていたひとりでした。《絶望の手》に見られる、力強く生々しい表現は師の影響を直接的に受けたものといえるでしょう。そこから均衡のとれた独自の様式へと作風を変化させ、《横たわるセレネ》や《ヴェールの踊り》といった作品が生まれます。

［第3章の主要作品］

ロダン《抱きあう子供たち》1880 年代、大理石

ロダン《うずくまる女》1882 年頃、ブロンズ　※画像⑦

ロダン《わたしは美しい》1885 年頃、ブロンズ　※画像⑧

ブールデル《絶望の手》1893-1902 年頃、ブロンズ

ブールデル《横たわるセレネ》1917 年、ブロンズ　※画像⑨

第4章　記念像制作

彫刻家にとって発注者のある公的な仕事の実現は、彼らの社会的成功を跡づけるものです。19 世紀後半から 20 世紀にかけて、ロダンもブールデルも記念像や建築装飾など大型の公共作品を次々と世に送り出しました。ロダンの生涯をかけての代表作となった《地獄の門》、発注者との意見の相違を乗り越え制作された《カレーの市民》、《バルザック》のように表現の斬新さが発注者の意図と合わず設置に至らなかった例もあり、これらは彫刻と社会との関わりを示す重要な指標となります。ブールデルもまた、《モントーバン戦没者記念像》*や《ミツキェヴィチ記念像》*を通じて社会的成功を収めました。シャンゼリゼ劇場の装飾レリーフ*は、オーギュスト・ペレによる建築やモーリス・ドニなどの絵画作品と総合され、ブールデルの代表作となりました。《わが子を捧げる聖母》は、

最終的には6mを超える像として完成された作品です。
（解説中、＊印の作品は本展出品作ではありません。）

［第4章の主要作品］

ロダン《考える人》1881-82年、ブロンズ　※画像⑪
ロダン《カレーの市民》1884-88年、ブロンズ
ロダン《地獄の門》1880-90年頃／1917年、ブロンズ
ロダン《バルザック（習作）》1897年、ブロンズ　※画像⑩
ブールデル《わが子を捧げる聖母》1920年、ブロンズ　※画像⑫

第５章　素描と版画

ロダンもブールデルも、彫刻家ながら生涯を通じて数多くの素描を残しています。それらは彫刻のための準備素描にとどまらず、彼らの素描家としての才能をよく表すものです。即興的な線と水彩によるロダンの素描には、人体の動勢にたいする、彫刻とは別のアプローチが見られます。本展で展示されるブールデルの素描《「勝利」の頭部》には、彫刻制作に向けた研究の跡を見ることができるでしょう。ロダンによる銅版画《世界を導くアムールたち》や《春》は、ロダンがセーヴル陶器工場で描いた図像に通じる装飾性を帯びた作品です。

［第5章の主要作品］

ロダン《蛇を巻く男》鉛筆、水彩、紙　※画像⑬
ロダン《世界を導くアムールたち》1881年、ドライポイント、紙
ブールデル《「勝利」の頭部》1917年、青黒インク、紙　※画像⑭

■オーギュスト･ロダン(1840-1917)について

警察の事務員の息子としてパリに生まれ、算術と素描を学ぶプティ･エコールに入学し、彫刻制作と出会う。パリの国立美術学校を三度受験するがいずれも不合格となった後、彫刻家バリーのもとで学び、またカリエ＝ベルーズのもとで職人として働きながら彫刻の技術を身につける。ベルギーそしてパリのサロンに提出した《青銅時代》が美術批評界に物議を醸し、一躍注目を集めることとなる。その後は、カレー市(《カレーの市民》)や装飾美術館(《地獄の門》)など公的な大型注文を受け、次第に自立した彫刻家としての地歩を築いていくことになる。古代からルネサンス、ロココなど過去の彫刻表現を包括したうえに同時代の象徴主義の息吹を存分に受け、古代神話や過去の文学作品に由来したテーマにより、人体の動勢を自由に描写し、独自の表現を打ち立てた。

■エミール＝アントワーヌ･ブールデル(1861-1929)について

フランス南部の街モントーバンに、家具職人の息子として誕生する。父の仕事を手伝いながら、絵画や彫刻の勉強を始める。彫刻はトゥールーズの美術学校で習得し、その後、パリの国立美術学校でファルギエールやダルーのもとで学ぶ。サロンを中心に作品を発表し続け、1910 年に発表した《弓をひくヘラクレス》で成功を収める。すでに社会的名声を得ていたロダンのもとで、1893 年以降約 15 年間、下彫り工として働き、作品にもロダン自身にも身近に接することになる。故郷であるモントーバン市のほか、パリのシャンゼリゼ劇場など、公的な注文にも次々と応じ、モニュメンタルな作品を残している。彫刻家としてブールデルが辿った道は、ロダンの影響から徐々に放たれ、幾何学性や古代の要素を強調する独自の方向へと展開する。教育者としても優れ、グランド･ショミエール･アカデミーではジャコメッティなどにも指導をしている。

■国立西洋美術館のロダン、ブールデルの彫刻コレクション：

今回展覧会で紹介する作品のほとんどは、1959(昭和 34)年の国立西洋美術館開館時より所蔵されているものです。つまり、フランスから寄贈返還された松方コレクションに含まれていたロダンとブールデルの作品ということになります。コレクションの生みの親である松方幸次郎(1866-1950)は、1910-20 年代に川崎造船所などの社長を務めながら、日本とヨーロッパをたびたび行き来し、そこで美術品の蒐集を精力的に行いました。フランスでは、当時の現代美術館であるリュクサンブール美術館ならびにロダン美術館の館長であったレオンス･ベネディットをコンサルタントとして、同時代の絵画や彫刻を蒐集しています。その彫刻蒐集の中心をなしていたのが、ロダンとブールデルの作品でした。松方が蒐集を始めたときにはすでにロダンは没していましたが、ロダンの遺した作品を管理するベネディット館長およびロダン美術館との契約により、多数の作品が鋳造され、コレクションに入りました。ブールデルからはベネディットを介して、彫刻を購入しています。これらのロダンとブールデルの彫刻コレクションは、日本では初めてのまとまった公開として、国立西洋美術館開館直後には高い人気を誇り、現在も美術館の顔として、多くの来館者の関心を集めています。今回は、普段はスペースの問題により展示する機会がなく、長年収蔵庫に保管されている作品も含め、まとめて公開します。なかにはロダン《エスクレピオス》やブールデル《横たわるセレネ》など、1960 年代に展示して以来、国立西洋美術館では約 45 年ぶりに公開する作品もあります。

手の痕跡

国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描

― 関連プログラムのご案内 ―

国立西洋美術館では、本展開催中、下記プログラムを実施しますので、併せてご案内いたします。

Fun with Collection 2012『彫刻の魅力を探る』 ※会期中同時開催

Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を様々な視点から楽しんでいただくため毎年開催しています。今年は、本展に関連して彫刻の技法や材料に焦点をあてた小展示とプログラムを実施します。

ブロンズや大理石などを使い、人物の肉体を力強く、しなやかに表現するロダンとブールデルの彫刻は、どのようにして作られているのでしょう。本企画では、作品のイメージを実現するための技法を紹介する資料展示を行います。ロダンやブールデルも使用した粘土による塑造、大理石による石造、ブロンズによる鋳造の3つの技法をとりあげます。

今回は、上野の東京芸術大学彫刻科研究室の協力により、新たに粘土(塑造)による女性の頭部(写真)を制作して、その原型を、石膏、テラコッタ、大理石、ブロンズという異なる素材に置き換える工程を、実物見本の展示とビデオでご覧いただきます。ロダンの工房で実際に行われていた方法と異なる部分はありますが、塑造、石造、鋳造の基本的な技法をご理解いただけるでしょう。また、それらの制作に使用される道具や素材も合わせて展示します。粘土で作られた頭部が、どのようにして異なる素材に置き換えられるのか、また異なる素材によって同じ作品の見え方がどのように変わるのかを会場で確認してみてください。

会期中には、資料展示を前にして、それぞれの素材の頭部を制作した彫刻家によるレクチャー＆デモンストレーションや、型を利用して金属や石膏の作品を制作するプログラムなども行います。

資料展示をご覧いただくことで、ロダンやブールデルの彫刻の新たな見方、楽しみ方を発見していただければ幸いです。

＊会場は本展と同じ企画展示室になります。入場には本展の観覧券が必要です。

FUN DAY (11月10日(土)、11日(日))

FUN DAYは国立西洋美術館を無料開放する日です。今年は、常設展と共に本展もご覧いただけます。ギャラリー・トーク、クイズなど、作品を楽しむためのさまざまなプログラムを用意します。彫刻家によるレクチャー＆デモンストレーションは、FUN DAYで実施します。すべて予約不要のプログラムです。

＊Fun with Collection 2012、FUN DAYの詳細は、おって各チラシと国立西洋美術館ホームページでご案内します。

ギャラリー・トーク

展覧会の見どころやおもな作品について、夜間開館を行っている次の金曜日に、当館研究員が展示室内で解説を行います。

日　時:11月16日(金)、12月14日(金)、1月11日(金)　各回18:00から約30分
集合場所:国立西洋美術館企画展示室入口
解　説:大屋美那(当館主任研究員・展覧会担当者)
＊参加無料。ただし、展覧会観覧券が必要です。直接集合場所にお越しください。

※各プログラムの内容等は急きょ変更となる場合があります。詳細、最新情報は国立西洋美術館ホームページでご確認ください。

主な出品作品（広報用写真データ一覧）

①《青銅時代》
オーギュスト・ロダン

②《エヴァ》
オーギュスト・ロダン

③《弓をひくヘラクレス（習作）》
エミール＝アントワーヌ・ブールデル

④《ピュヴィ・ド・シャヴァンヌの胸像》
オーギュスト・ロダン

⑤《泣く女》
オーギュスト・ロダン

⑥《首のあるアポロンの頭部》
エミール＝アントワーヌ・ブールデル

⑦《うずくまる女》
オーギュスト・ロダン

⑧《私は美しい》
オーギュスト・ロダン

⑨《横たわるセレネ》
エミール＝アントワーヌ・ブールデル

⑩《バルザック（習作）》
オーギュスト・ロダン

⑪《考える人》
オーギュスト・ロダン

⑫《わが子を捧げる聖母》
エミール＝アントワーヌ・ブールデル

⑬《蛇を巻く男》
オーギュスト・ロダン

⑭《「勝利」の頭部》
エミール＝アントワーヌ・ブールデル

手の痕跡 ―国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描

広報用写真データ申込書　事業担当　行　FAX 03－3828－5135

展覧会の作品写真を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAX でお申し込みください。
画像データにてお送り致します。

■ 画像のご使用は展覧会をご紹介いただける場合に限ります。それ以外の目的でのご使用はご遠慮ください。
■ 画像データの「作品」は必ず全図で使用してください。作品部分の改変・部分使用・文字のせは出来ません。
　展覧会名、会期、会場、《作品名》、作者名、所蔵館、クレジットは必ずご記載ください。
■ お手数ですが、確認のため、必ずゲラの段階でメールまたは FAX で当館宛にお送りいただきますようお願いいたします。
■ Web媒体の掲載における画像サイズ及び精度は、名刺大、GIF形式(256 色)、72dpi、50kbyte 以下で掲載願います。
■ 展覧会情報ご掲載の場合は、問い合せ先番号(ハローダイヤル:03-5777-8600)を明記いただきますようお願いします。
■ 作品写真 1 点以上をご掲載の上、展覧会をご紹介いただける場合に、読者プレゼント招待券(10 組 20 枚)を提供いたします。
■ 掲載後、掲載紙・誌を2部、下記宛てにお送りください。
　【送付先:〒110-0007 台東区上野公園 7-7 国立西洋美術館 事業担当宛】
■ お問い合わせ先　国立西洋美術館 事業担当 渡辺、田島、眞壁
　電話:03-3828-5144　FAX:03-3828-5135　E-mail:jigyo@nmwa.go.jp (土日祝日を除く、9:30～17:30)

貴媒体名	
貴社名／部署	
ご担当者名	
ご連絡先	TEL:　　FAX:
ご住所	〒
メールアドレス(データ送付先)	
掲載・放映予定日/コーナー名	
読者プレゼント(招待券)	□希望する

※ご記入いただいた個人情報は、展覧会の広報用写真貸出の目的にのみ使用し、それ以外の用途には使用いたしません。

チェック	作品名	作者※	制作年	素材(サイズ)	所蔵／クレジット
□①	青銅時代	AR	1877 年	ブロンズ (181×70×66)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□②	エヴァ	AR	1907 年	ブロンズ (174×67×77)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□③	弓をひくヘラクレス(習作)	B	1909 年	ブロンズ (174×67×77)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□④	ﾋﾟｭｳﾞｨ･ﾄﾞ･ｼｬｳﾞｧﾝﾇの胸像	AR	1890-91 年	ブロンズ (51×50×32)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□⑤	泣く女	AR	―	大理石 (42×50×17)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□⑥	首のあるアポロンの頭部	B	1900 年	ブロンズ (50×22×23)	国立西洋美術館 (C)上野則宏
□⑦	うずくまる女	AR	1882 年頃 1906-08 年頃拡大	ブロンズ (96×68×55)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)安齋重男
□⑧	私は美しい	AR	1885 年頃	ブロンズ (70×32×33)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□⑨	横たわるセレネ	B	1917 年	ブロンズ (85×75×21)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□⑩	バルザック(習作)	AR	1897 年	ブロンズ (106×45×38)	国立西洋美術館 (C)上野則宏
□⑪	考える人	AR	1881-82 年	ブロンズ (71.5×45×60)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□⑫	わが子を捧げる聖母	B	1920 年	ブロンズ (65×25×16)	国立西洋美術館 松方コレクション (C)上野則宏
□⑬	蛇を巻く男	AR	―	鉛筆、水彩、紙 (31.5×25.5)	国立西洋美術館 松方コレクション
□⑭	「勝利」の頭部	B	1917 年	青黒インク、紙 (44×32)	国立西洋美術館

※作者表記 「AR」:オーギュスト・ロダン、「B」:エミール＝アントワーヌ・ブールデル